

下田正弘教授 略歴・業績一覧

略歴

1957年11月30日 福岡県 生

【学歴】

- 1) 1981年3月 文学士（東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程）
- 2) 1984年3月 文学修士（東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門分野）
- 3) 1994年6月 博士（文学）（東京大学）

【職歴】

- 1) 1989年4月 日本学術振興会特別研究員
ー1991年3月
- 2) 1994年10月 東京大学文学部助教授
- 3) 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
ー2006年3月
- 4) 2006年1月ー3月 ロンドン大学東洋アフリカ学院教授（沼田講座）
- 5) 2006年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授
ー2023年3月
- 6) 2011年2月 スタンフォード大学 Ho 仏教学センター客員教授
- 7) 2012年4月 東京大大学院人文社会系研究科
ー2023年3月 次世代人文学開発センター 人文情報学拠点長
- 8) 2017年3月ー5月 ウィーン大学文献文化学部教授（沼田講座）

【受賞歴】

- 1) 1993年7月 日本印度学仏教学会賞（日本印度学仏教学会）
- 2) 1993年10月 東方学会賞（財団法人東方学会）
- 3) 1997年7月 日本宗教学会賞（日本宗教学会）
- 4) 2011年4月 仏教功労賞最高賞 Highest Decoration of Excellence
（タイ国議会 The National Assembly of Thailand）
- 5) 2014年11月 毎日出版文化賞（毎日新聞社）
- 6) 2015年5月 パーリ学仏教文化学会賞功労賞
- 7) 2019年3月 デジタルアーカイブ学会第一回学会賞・実践賞
（デジタルアーカイブ学会）
- 8) 2019年11月 第8回ゲスナー賞金賞（株式会社丸善雄松堂）
- 9) 2020年5月 デジタルアーカイブ学会第三回学会賞・学術賞（著書）
（デジタルアーカイブ学会）
- 10) 2022年9月 第31回中村元東方学術賞（中村元東方研究所）

業績

【著書】

- 1) 『藏文和訳『大乘涅槃経』(I)』山喜房仏書林, 1993, xxxii + 302 p.
- 2) 『涅槃経の研究：大乘経典の研究手法試論』春秋社, 1997, xviii + 683 + 32 + 31 + 42 p.
- 3) 『パリニッバーナ：終わりからの始まり』NHK 出版, 2007, 125 p.
- 4) 『仏教とエクリチュール：大乘経典の起源と形成』東京大学出版会, 2020, x + 332 + 27 p.

【データベース】

- 1) SAT 大蔵経テキストデータベース 2008 年版, URL: <https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/ddb-sat2.php>, SAT 大蔵経テキストデータベース研究会, 代表, 2008.
- 2) Indo-Tibetan Lexical Resources, URL: <https://itlr.dhii.jp/test.php?md=view>, ハンブルク大学・東京大学人文情報学部・一般財団法人人文情報学研究所, 連携機関代表, 2012.
- 3) SAT 大正蔵図像データベース, URL: <https://dzkimgs.l.u-tokyo.ac.jp/SATi/images.php>, SAT 大蔵経テキストデータベース研究会, 代表, 2016.
- 4) SAT 大蔵経テキストデータベース 2018 年版, URL: <https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT2018/master30.php>, SAT 大蔵経テキストデータベース研究会, 代表, 2018.
- 5) Digital 法寶義林, URL: <https://tripitaka.l.u-tokyo.ac.jp/hbgrn/>, フランス学士院碑文芸アカデミー・SAT 大蔵経テキストデータベース研究会, 連携機関代表, 2021.

【編著書】

- 1) 東洋文庫チベット研究委員会編 (山口瑞鳳代表, 西岡祖秀, 木村隆徳, 田中公明, 佐古年穂, 下田正弘協力) 『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 第9分冊』, 東洋文庫, 1985, 123 p.
- 2) Ejima, Yasunori ed. Rentarō Ikeda, Hiroshi Marui, Shin`ya Matsuda, Shigeo Okada, Akira Saitō, Toshio Sako, Hidenori Sakuma, Masahiro Shimoda, Kimiaki Tanaka, Takashi Toda, Noboru Ueda, Shōgo Watanabe, Kiyotaka Yoshimizu, Shirō Yoshioka co-eds. *Index to the Saddharmapuṇḍarikasūtra: Sanskrit, Tibetan, Chinese* 梵藏漢法華経原典総索引, fasc.1-11, Tokyo: The Reiyukai, 1985-1993, 1193 p.
- 3) 勝崎裕彦, 下田正弘, 小峰弥彦, 渡辺章悟 『大乘経典解説事典』北辰堂, 1997, x + 416 + (36) p.
- 4) Ejima, Yasunori ed. Morinobu Asano, Kuniko Hosono, Toshiyuki Kishine, Masahiro Shimoda, Takashi Toda, Noburu Ueda, Shōgo Watanabe, Shirō Yoshioka co-eds. *Tibetan Sanskrit Word Index to the Saddharmapuṇḍarikasūtra*, Tokyo: The Reiyukai, 1998, ix + 308 p.
- 5) 島蘭進, 深澤英隆, 石井研士, 下田正弘 『宗教学文献事典』弘文堂, 2007, lvi + 558 p.
- 6) 熊野純彦, 下田正弘 『死生学 2：宗教と他界が照らす生』東京大学出版会, 2008, x + 289 p.
- 7) 奈良康明, 下田正弘 『仏教出現の背景：新アジア仏教史 01 インド I』佼成出版社, 2010, 413 p.

- 8) 奈良康明, 下田正弘『仏典からみた仏教世界:新アジア仏教史 03 インド III』佼成出版社, 2010, 415 p.
- 9) Mayeda, Sengaku, Masahiro Shimoda eds. *Spread and Influence of Hinduism and Buddhism in Asia*, Delhi: Originals, 2010, xxv + 160 p.
- 10) 奈良康明, 下田正弘『仏教の形成と展開:新アジア仏教史 02 インド II』佼成出版社, 2010, 463 p.
- 11) 奈良康明, 下田正弘『静と動の仏教:新アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア』佼成出版社, 2011, 527 p.
- 12) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『大乘仏教とはなにか:シリーズ大乘仏教1』春秋社, 2011, v+288 p.
- 13) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『大乘仏教の実践:シリーズ大乘仏教3』春秋社, 2011, vi+272 p.
- 14) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『大乘仏教の誕生:シリーズ大乘仏教2』春秋社, 2011, vi+266 p.
- 15) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『認識論と論理学:シリーズ大乘仏教9』春秋社, 2012, iv+294 p.
- 16) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『唯識と瑜伽行:シリーズ大乘仏教7』春秋社, 2012, iv+290 p.
- 17) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『空と中観:シリーズ大乘仏教6』春秋社, 2012, v+226 p.
- 18) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『智慧/世界/ことば(大乘仏典I):シリーズ大乘仏教4』春秋社, 2013, v+361 p.
- 19) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『仏と浄土(大乘仏典II):シリーズ大乘仏教5』春秋社, 2013, v+300 p.
- 20) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『大乘仏教のアジア:シリーズ大乘仏教10』春秋社, 2013, v+311 p.
- 21) 桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士『如来蔵と仏性:シリーズ大乘仏教8』春秋社, 2014, v+365 p.
- 22) 末木文美士, 下田正弘, 堀内伸二『仏教の事典』朝倉書店, 2014, 561 p.
- 23) フリードリヒ・マックス・ミュラー著, 松村一男, 下田正弘監修, 山田仁史, 久保田浩, 日野慧運訳『比較宗教学の誕生 宗教・神話・仏教』国書刊行会, 2014, 644 p.
- 24) 下田正弘, 永崎研宣『デジタル学術空間の作り方:仏教学から提起する次世代人文学のモデル』文学通信, 2019, 383 p.
- 25) 斎藤明, 丸井浩, 下田正弘, 蓑輪顕量, 梶原三恵子, 高橋晃一, 加藤隆宏『仏典解題事典〔第三版〕』春秋社, 2020, 516 p.

【単著論文】

- 1) 「四念処における不浄観の問題」『印度學佛教學研究』33-2, pp. 545-546, 1985.
- 2) 「プトゥンの如来蔵解釈:『宝性論』と『涅槃経』の立場」山口瑞鳳監修『チベットの

- 仏教と社会』春秋社, pp. 321–339, 1986.
- 3) 「大衆部系沙弥戒のテキストについて」『印度學佛教學研究』36-2, pp. 80–82, 1987.
 - 4) “The Motif of *Uposatha* Quoted in the *Mahāyāna-Mahāparinirvāṇasūtra* and *Aśokāvadāna*,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 37-1, pp. 19–23, 1988.
 - 5) 「『大乘涅槃經』の思想構造：一闍提の問題について」『仏教学』27, pp. 69–95, 1989.
 - 6) 「書評：望月良晃著『大乘涅槃經の研究：教団史的考察』」『宗教研究』63-1, pp. 178–181, 1989.
 - 7) 「三種の淨肉再考：部派における肉食制限の方向」『仏教文化』25, pp. 1–21, 1989.
 - 8) 「東アジア仏教の戒律の特色：肉食禁止の由来をめぐって」『東洋学術研究』29-4, pp. 98–110, 1990.
 - 9) “The *Sphuṭārthā Śrīghanācārasaṅgrahaṭīkā* and the Chinese *Mahāsāṅghika Vinaya*,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 39-1, pp. 11–14, 1990.
 - 10) 「『原始涅槃經』の存在：大乘『涅槃經』の成立史的研究 その1」『東京大学東洋文化研究所紀要』113, pp. 1–126, 1991.
 - 11) 「大乘『涅槃經』と『宝積經・摩訶迦葉会』：仏塔信仰の否定」『東方学』82, pp. 129–118, 1991.
 - 12) 「常樂我淨：仏教におけるアートマン受容の一通路」『仏教学』31, pp. 1–22, 1991.
 - 13) 「部派における「菓」としての肉食の諸相」東京大学文学部印度哲学研究室編『〈我〉の思想：前田専学博士還暦記念論集』春秋社, pp. 543–553, 1991.
 - 14) “The Relationship between the *Mahāyāna Mahāparinirvāṇasūtra* and the *Mahāsāṅghika*,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 42-2, pp. 22–27, 1994.
 - 15) 「《さとり》と《救い》：インド仏教類型論再考」『宗教研究』70-1, pp. 25–46, 1996.
 - 16) 「仏塔信仰と如来蔵思想」今西順吉教授還暦記念論集刊行会編『インド思想と仏教文化：今西順吉教授還暦記念論集』春秋社, pp. 307–318, 1996.
 - 17) 「東アジアに流布した『涅槃經』：仏性の背景にある世界」高崎直道, 木村清孝監修『仏教の東漸：東アジアの仏教思想 1 / シリーズ東アジア仏教 2』春秋社, pp. 264–277, 1997.
 - 18) 「涅槃に住するブツダの身体：部派仏教における仏塔の位置」『東方学会創立五十周年記念・東方学論集』東方学会, pp. 1382–1371, 1997.
 - 19) 「古代インドの時をめぐって：ヴェーダから仏教へ」聖心女子大学キリスト教文化研究所編『地球化時代のキリスト教：自己変成の途』春秋社, pp. 197–212, 1998.
 - 20) 「ブツダと真理：「ブツダの神格化」を問い直す」高崎直道監修『ブツダ・大いなる旅路<1>』NHK 出版, pp. 169–174, 1998.
 - 21) 「阿蘭若処に現れた仏教者の姿：倫理的自制型と呪術的陶醉型」『日本仏教学会年報』63, pp. 1–13, 1998.
 - 22) 「仏とは何か」『駒沢短期大学仏教論集』5, pp. 1–17, 1999.
 - 23) 「「梵天勸請」説話と『法華經』のブツダ観：仏教における真理の歴史性と超歴史性」『中央学術研究所紀要』28, pp. 69–99, 1999.
 - 24) 「仏教における善悪の超越：初期仏教経典から」『季刊・仏教』50, pp. 158–165, 2000.

- 25) 「佛敎研究的現状与課題：以佛陀觀的變遷為例証」（高洪訳）『季刊・世界宗教研究』80, pp. 147-150, 2000.
- 26) 「註釈書としての〈大乘涅槃經〉：ニカーヤ・アッタカターとの一致にみる涅槃經の展開形態」加藤純章博士還曆記念論集刊行会編『アビダルマ仏敎とインド思想：加藤純章博士還曆記念論集』春秋社, pp. 327-339, 2000.
- 27) 「涅槃と如来の實在：〈大乘涅槃經〉とパーリ文献の比較」江島惠敎博士追悼論集刊行会編『空と實在：江島惠敎博士追悼論集』春秋社, pp. 77-92, 2000.
- 28) 「和語で味わう親鸞の思想」ケネス田中編『親鸞と私』武蔵野大学出版会, pp. 35-63, 2000.
- 29) “Buddha within and beyond History: The Buddhology in the *Saddharmapuṇḍarīka* in Connection with an Episode of God Brahma’s Request for the Buddha’s First Sermon,” 中華仏敎研究所聖嚴博士古稀記念論集刊行会編『東アジア仏敎の諸問題：聖嚴博士古稀記念論集』山喜房仏書林, pp. 93-114, 2001.
- 30) 「〈近代仏敎学〉と〈仏敎〉」『佛敎学セミナー』73, pp. 97-118, 2001.
- 31) “How Has the *Lotus Sūtra* Created Social Movements?: The Relationship of the *Lotus Sūtra* to the *Mahāparinirvāṇasūtra*,” Gene. Reeves ed., *A Buddhist Kaleidoscope: Essays on the Lotus Sūtra*, Tokyo: Kōsei Publishing, pp. 319-331, 2002.
- 32) 「大乘涅槃經の敎団をめぐる歴史的状況：第一類「金剛身品」を中心として」櫻部建博士喜寿記念論集刊行会編『初期仏敎からアビダルマへ：櫻部建博士喜寿記念論集』平楽寺書店, pp. 103-116, 2002.
- 33) 「生活世界の復権：新たななる仏敎学の地平へ」『宗教研究』333, pp. 1-28, 2002.
- 34) 「口頭伝承から見たインド仏敎聖典研究についての覚え書き」『印度哲学仏敎学』17, pp. 30-45, 2002.
- 35) 「未来に照らされる仏敎：仏敎学に与えられた課題」『思想』943, pp. 206-222, 2002.
- 36) 「初期仏敎における暴力の問題：シュミットハウゼン敎授の理解に対して」木村清孝博士還曆記念会編『東アジア仏敎：その成立と展開 / 木村清孝博士還曆記念論集』春秋社, pp. 389-404, 2002.
- 37) “Stūpa Worship as Historical Background to Tathāgatagarbha Theory: As Suggested by Several Seemingly Irrelevant Texts,” Publication Committee for Buddhist and Indian Studies in Honour of Professor Sodo Mori ed., *Buddhist and Indian Studies in Honor of Professor Sodo Mori*, Hamamatsu: Kokusai Bukkyōto Kyōkai, pp. 247-258, 2002.
- 38) 「インド大乘仏敎研究の現状と理解」『仏敎文化』42, pp. 100-110, 2002.
- 39) 「西洋における近代以前のインド仏敎研究」『論集・古典学の再構築 I』, pp. 104-110, 2003.
- 40) “Brahmā’s Entreaty to the Buddha to Teach: The Transmission of the Dharma Reflected in the Lotus Sūtra,” *The Middle Way: Journal of Buddhist Society* 78-4, pp. 227-235, 2004.
- 41) 「閉ざされた死からの解放：諸行無常が開く世界」『死生学研究』2004年春号, pp. 8-32, 2004.
- 42) 「聖なる書物のかなたへ：新たななる仏敎史へ」池上良正ほか編『言語と身体：聖なる

- ものの場と媒体 / 岩波講座・宗教5』岩波書店, pp. 25-52, 2004.
- 43) 「菩薩の仏教：ジャン・ナティエ著『ア・フュー・グッドメン』によせて」『法華文化研究』30, pp. 1-18, 2004.
 - 44) 「仏説の特徴について」『叡山学院集報』30, pp. 2-25, 2004.
 - 45) 「開かれた倫理へ：古代インドにおける仏教の誕生」聖心女子大学キリスト教文化研究所編『共生と平和への道：報復の正義から赦しの正義へ / 聖心女子大学キリスト教文化研究所創立50周年記念論集』春秋社, pp. 149-165, 2005.
 - 46) 「仏教研究と時代精神」『龍谷史壇』122, pp. 27-55, 2005.
 - 47) 「〈物語られるブッダ〉の復活：歴史学としての仏教学を再考する」長崎法潤博士古稀記念論集刊行会編『仏教とジャイナ教：長崎法潤博士古稀記念論集』平楽寺書店, pp. 357-379, 2005.
 - 48) 「近代仏教学の展開とアジア認識：他者としての仏教」岸本美緒編『東洋学の磁場 / 岩波講座「帝国」日本の学知3』岩波書店, pp. 175-214, 2006.
 - 49) 「なぜ非暴力なのか：仏教における暴力の自覚」末木文美士編『現代と仏教：いま、仏教が問うもの、問われるもの』佼成出版社, pp. 80-100, 2006.
 - 50) “An Essay on the Formation Process of Buddhist Scriptures in Ancient India,” Toshihiro Wada ed., *Conflict between Tradition and Creativity in Indian Philosophy*, Nagoya: Nagoya University, pp. 23-35, 2006.
 - 51) 「生と死の反照を超えて：「行為の倫理」への試論」熊野純彦, 下田正弘編『死生学 2：宗教と他界が照らす生』東京大学出版会, pp. 245-265, 2008.
 - 52) 「仏教の人間観と現代」聖心女子大学キリスト教文化研究所編『新しい人間像を求めて：人間存在の実像と虚像のはざままで / 宗教文明叢書7』春秋社, pp. 151-169, 2009.
 - 53) “The State of Research on Mahāyāna Buddhism: The Mahāyāna as Seen in the Development in the Study of Mahāyāna Sūtras,” *Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture* 96, 2009, pp. 1-23.
 - 54) 「涅槃について：仏教における「いのち」」『東方』24, pp. 30-45, 2009.
 - 55) 「伝承といういとなみ：実践仏教の解釈学」『親鸞教学』93, pp. 23-45, 2009.
 - 56) 「媒体の展開としての仏教史：教典研究と人文学の一将来像」市川裕, 松村一人, 渡辺和子編『宗教史とはなにか』リトン, pp. 451-476, 2009.
 - 57) 「仏教の倫理を考察するための視点：縁起から二諦へ」『日本仏教学会年報』74, pp. 1-13, 2009.
 - 58) 「書評と紹介：藤田宏達著『浄土三部経の研究』」『宗教研究』83-3, pp. 993-1001, 2009.
 - 59) “Some Reflections on the History of Buddhist Canons in Ancient India,” Toshihiro Wada ed., *Indian Philosophy and Text Science*, Delhi: Motilal Banarsidass, 2010, pp. 33-57.
 - 60) 「近代仏教学の形成と展開」奈良康明, 下田正弘編『仏教の形成と展開：新アジア仏教史 02 インド II』佼成出版社, pp. 13-55, 2010.

- 61) 「他者としての仏教：可能性としての南アジア試論」『南アジア研究』22, pp. 158–169, 2010.
- 62) 「仏教学のゆくえ：弁証法的運動体としての仏教」末木文美士ほか編『現代仏教の可能性：新アジア仏教史 15 日本 V』佼成出版社, pp. 424–435, 2011.
- 63) 「経典研究の可能性を再考する：セッション No. 5 の発表に対するコメント」『日本仏教学会年報』76, pp. 195–207, 2011.
- 64) 「経典研究の展開からみた大乘仏教」桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士編『大乘仏教とはなにか：シリーズ大乘仏教 1』春秋社, pp. 39–71, 2011.
- 65) 「漢語世界から照らされる仏教：大乘仏教研究における漢訳仏典研究の意義」桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士編『大乘仏教とはなにか：シリーズ大乘仏教 1』春秋社, pp. 185–198, 2011.
- 66) 「経典を創出する：大乘世界の出現」桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士編『大乘仏教の誕生：シリーズ大乘仏教 2』春秋社, pp. 37–71, 2011.
- 67) 「〈涅槃経〉経典群の編纂過程から照らす〈法華経〉：〈法華経〉の構造解明のための準備として」『法華文化研究』36, pp. 1–17, 2011.
- 68) 「大乘仏教起源論再考」『印度學佛教學研究』61-2, pp. 843–835, 2013.
- 69) 「初期大乘経典のあらたな理解に向けて：大乘仏教起源論再考」桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士編『智慧／世界／ことば（大乘仏典 I）：シリーズ大乘仏教 4』春秋社, pp. 3–100, 2013.
- 70) 「浄土思想の理解に向けて」桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士編『仏と浄土（大乘仏典 II）：シリーズ大乘仏教 5』春秋社, pp. 3–78, 2013.
- 71) 「仏教における生死：「生死一如」観の背景」大村英昭, 井上俊編『別れの文化：生と死の宗教社会学』書肆クラルテ, pp. 185–211, 2013.
- 72) 「仏教学批判の意義：「行為者志向」批判から「行為志向」の解釈学へ」『近代仏教』21, pp. 73–92, 2014.
- 73) 「如来蔵・仏性思想のあらたな理解に向けて」桂紹隆, 斎藤明, 下田正弘, 末木文美士編『如来蔵と仏性：シリーズ大乘仏教 8』春秋社, pp. 3–95, 2014.
- 74) 「真俗二諦の意義について」大谷大学真宗総合研究所真宗同朋会運動研究班編『同朋会運動の原像：体験告白と解説』法蔵館, pp. 157–175, 2014.
- 75) 「大乘経典の出現と浄土思想の誕生：エクリチュール論の視座から」安富信哉博士古稀記念論集刊行会編『仏教的伝統と人間の生：親鸞思想研究への視座』法蔵館, pp. 103–118, 2014.
- 76) 「近代人文学史からみた仏教学と宗教学：マックス・ミュラーの偉業」フリードリヒ・マックス・ミュラー著, 松村一男, 下田正弘監修, 山田仁史, 久保田浩, 日野慧運訳『比較宗教学の誕生 宗教・神話・仏教』国書刊行会, pp. 608–629, 2014.
- 77) 「思想の痕跡としてのテキスト」秋山聰, 野崎歓編『人文知 2：死者との対話』東京大学出版会, pp. 43–62, 2014.
- 78) “Some Reflections on Toshihiko Izutsu’s Metaphysics of Consciousness: Focusing on His Interpretation of the Buddhist Philosophy on the Treatise of the Awakening of the Faith of the

- Mahayana,” 智山学報編集委員会編『小峰彌彦先生 小山典勇先生 古稀記念：転法輪の歩み<第 65 輯（通巻 79 号）>』智山勸学会, pp. 51–60, 2016.
- 79) 「仏教の社会的実践を考えるためのいくつかの課題」『日本仏教学会年報』81, pp. 155–168, 2016.
- 80) 「書評と紹介：島藺進『日本仏教の社会倫理：「正法」理念から考える』」『宗教研究』90-3, pp. 106–113, 2016.
- 81) 「仏教研究の死角：ウィルフレッド・キャントウエル・スミスの理解から」三友健容博士古稀記念論文集刊行会編『智慧のともしび：アビダルマ仏教の展開 / 三友健容博士古稀記念論集』山喜房仏書林, pp. 84–102, 2016.
- 82) “Towards the Construction of a Common Infrastructure for CJK Ideographs in the Sinographic Cultural Sphere,” *Transactions of the International Conference of Eastern Studies* 61, pp. 125–129, 2016.
- 83) 「仏教学の方法と未来：領域独存から超域共存へ」『印度學佛教學研究』65-2, pp. 1–11, 2017.
- 84) 「比較思想と人文情報学：デジタル・ヒューマニティーズの現在から」『比較思想研究』44, pp. 52–57, 2017.
- 85) 「井筒俊彦が開頭する仏教思想：比較宗教的地平から如来蔵思想をみる」澤井義次, 鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』慶應義塾大学出版会, pp. 207–230, 2018.
- 86) 「学問の対象としての法然浄土学」『浄土学』55, pp. 29–57, 2018.
- 87) 「変貌する学問の地平と宗学の可能性」元山公寿監修, 智山勸学会編『日本仏教を問う：宗学のこれから』春秋社, pp. 207–241, 2018.
- 88) 「仏教学のフロンティアと比較思想：言語論的転回からの照射」『比較思想研究』45, pp. 58–63, 2019.
- 89) 「エクリチュール論から照らす仏教研究：大乘經典研究準拠構築のこころみ」『インド哲学仏教学研究』27, pp. 1–51, 2019.
- 90) 「デジタル化時代の人文学と中国研究：学術インフラの整備と国際学術ネットワークへの貢献に向けて」『中国：社会と文化』34, pp. 5–19, 2019.
- 91) “Foreword,” John White and Kemmyo Taira Satō, 5-7-5 *The Haiku of Basho*, London: The Buddhist Society Trust, pp. 8–10, 2019.
- 92) “The Structure of the Soteriology of Tathāgatagarbha Thought as Seen from the Perspective of Different Modes of Discourse: A Response to Critical Buddhism,” *Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture* 118, pp. 79–97, 2019.
- 93) 「大乘仏教の成立」伊藤邦武ほか編『世界哲学史 2：古代 II 世界哲学の成立と展開』筑摩書房, pp. 87–111, 2020.
- 94) 「「正典概念とインド仏教史」を再考する：直線的歴史観からの解放」『印度學佛教學研究』68-2, pp. 1043–1035, 2020.
- 95) “Reconsidering the Methodologies for the Study of Mahāyāna Sūtras,” Takami Inoue, Imre Hamar eds., *The Buddha’s Words and Their Interpretations*, Kyoto: The Shin Buddhist Comprehensive Research Institute, Otani University, pp. 1–18, 2020.

- 96) “East Asia as a Method of Research, Illustrated by an Interpretation of Japanese Edo-Period Haiku by a Western Art Historian,” *International Journal of Buddhist Thought & Culture* 31-2, pp. 15–27, 2021.
- 97) “Guest Editor’s Introduction: East Asia as a Method of Research and History Behind the Publication of This Issue,” *International Journal of Buddhist Thought & Culture* 31-2, pp. 7–12, 2021.
- 98) 「聖典としての仏教：『法華経』にみる三宝の歴史性」『東洋学術研究』 61-1, pp. 221–247, 2022.
- 99) 「セッション No. 6 の発表に対するコメント：三宝の出現形態と経典言説の歴史的展開」『日本仏教学会年報』 86, pp. 296–301, 2023.

【共著論文】

- 1) 下田正弘, 師茂樹「大正新脩大蔵経データベース (SAT) における外字問題」『人文学と情報処理』 25, pp. 35–43, 1999.
- 2) 榊義孝, 下田正弘, 田中純男, 廣澤隆之「密教の展望：近代仏教学を問う」『密教学研究』 34, pp. 123–170, 2002.
- 3) 永崎研宣, 鈴木隆泰, 下田正弘「大正新脩大蔵経テキストデータベース構築のためのコラボレーションシステムの開発」『情報処理学会研究報告』 70, pp. 33–40, 2006.
- 4) 永崎研宣, 下田正弘「「人文系データベース」における相互運用をめぐる諸問題」『じんもんこん 2008 論文集』, pp. 19–26, 2008.
- 5) 永崎研宣, 白須裕之, 下田正弘「大蔵経における多言語対訳コーパスの構築」『じんもんこん 2009 論文集』, pp. 129–134, 2009.
- 6) Nagasaki, Kiyonori. A. Charles Muller, Masahiro Shimoda. “Aspects of the Interoperability in the Digital Humanities,” *Digital Humanities* 2009, pp. 375–377, 2009.
- 7) 下田正弘, 永崎研宣「大蔵経と人文系データベース」『情報処理学会研究報告：人文学とコンピュータ研究会研究報告』 82-8, pp. 1–6, 2009.
- 8) Muller, A. Charles, Kōzaburō Hachimura, Shoichiro Hara, Toshinobu Ogiso, Mitsuru Aida, Koichi Yasuoka, Ryo Akama, Masahiro Shimoda, Tomoji Tabata, Kiyonori Nagasaki, “The Origins and Current State of Digitization of Humanities in Japan,” *Digital Humanities* 2010, pp. 68–70, 2010.
- 9) 松田訓典, 彌永信美, 永崎研宣, 下田正弘「フランス語仏教辞典『法寶義林』目録のデジタル化とその課題：TEIガイドラインの適用を通して」『情報処理学会研究報告：人文学とコンピュータ研究会研究報告』 87-7, pp. 305–310, 2010.
- 10) 永崎研宣, 下田正弘「東洋古典文献研究におけるデジタルテキストの適切な記述手法について：インド学仏教学のための学術知識基盤の構築に向けて」『じんもんこん 2010 論文集』, pp. 311–316, 2010.
- 11) 永崎研宣, 苔米地等流, Dorji Wangchuk, Orna Almogi, 下田正弘「人文学のためのコラボレーション：ITLR コラボレーションシステムの開発を中心的事例として」『情報処理学会：人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』

- 2011, pp. 155–160, 2011.
- 12) Nagasaki, Kiyonori, Toru Tomabechi, Masahiro Shimoda. “Towards a Digital Research Environment for Buddhist Studies,” *Literary and Linguistic Computing* 28-2, pp. 296–300, 2013.
 - 13) Nagasaki, Kiyonori, Toru Tomabechi, A. Charles Muller, Masahiro Shimoda. “Digital Humanities in Cultural Areas Using Texts That Lack Word Spacing,” *Digital Humanities* 2016, pp. 300–303, 2016.
 - 14) Nagasaki, Kiyonori, Tetsuei Tsuda, Yuho Kitazaki, A. Charles Muller, Masahiro Shimoda. “A Collaborative Approach between Art History and Literature via IIF,” *Digital Humanities* 2017, pp. 8–11, 2017.
 - 15) 永崎研宣, 下田正弘「オープン化が拓くデジタルアーカイブの高度利活用: IIF Manifests for Buddhist Studies の運用を通じて」『じんもんこん 2018 論文集』, pp. 389–394, 2018.
 - 16) 王一凡, 下田正弘「中国の書籍デジタル化コンソーシアム CADAL の動き」『中国 21』 51, pp. 167–184, 2019.
 - 17) Kokaze, Naoki, Kiyonori Nagasaki, Makoto Gotō, Yuta Hashimoto, A. Charles Muller, Masahiro Shimoda. “Toward a Model for Marking up Non-SI Units and Measurements,” *Journal of the Text Encoding Initiative* 12, pp. 1–22, 2019.
 - 18) 渡邊要一郎, 永崎研宣, 大向一輝, 下田正弘「Pali Text Society 版パーリ語文献を対象としたテキスト検索システムの構築」『研究報告 人文科学とコンピュータ (CH)』2020-CH-124-4, pp. 1–4, 2020.
 - 19) 永崎研宣, 大向一輝, 下田正弘「仏教研究におけるテキスト検索の現状と課題」『研究報告 人文科学とコンピュータ (CH)』2020-CH-124-5, pp. 1–6, 2020.
 - 20) 永崎研宣, 大向一輝, 下田正弘「仏教文献研究のための IIF の活用における諸課題の解決に向けて」『じんもんこん 2020 論文集』, pp. 75–80, 2020.
 - 21) 渡邊要一郎, 永崎研宣, 朴賢珍, 王一凡, 村瀬友洋, 渡邊眞儀, 大向一輝, 下田正弘「大正新脩大藏經の構造的記述に向けて」『じんもんこん 2020 論文集』, pp. 61–66, 2020.
 - 22) 王一凡, 渡邊要一郎, 永崎研宣, 下田正弘「『續一切經音義』からみる漢文文献の TEI マークアップの課題」『じんもんこん 2021 論文集』, pp. 234–239, 2021.
 - 23) 左藤仁宏, 渡邊要一郎, 永崎研宣, 下田正弘「仏教思想の概念体系の記述手法としての TEI マークアップの現状と課題」『じんもんこん 2021 論文集』, pp. 288–293, 2021.
 - 24) 永崎研宣, 大向一輝, 下田正弘「仏教学のためのデジタル学術編集システムの構築に向けたモデルの提案と実装」『情報処理学会論文誌』 63-2, pp. 324–334, 2022.
 - 25) 渡邊要一郎, 永崎研宣, 大向一輝, 井野雅文, 村瀬友洋, 朴賢珍, 下田正弘「デジタル法寶義林における研究データの共同構築」『研究報告 人文科学とコンピュータ (CH)』2021-CH-128-9, pp. 1–4, 2022.
 - 26) 永崎研宣, 中村覚, 田中真, 西河雅人, 林龍樹, 井上慶淳, 下田正弘「構造化テキストデータの活用における現状と課題 —TEI に準拠した『浄土真宗聖典全書』全文検索システムの開発を通じて—」『じんもんこん 2022 論文集』, pp. 73–78, 2022.

- 27) 西岡千文, 永崎研宣, 清水元広, 下田正弘「人文学におけるオープン・サイテーションの可能性：インド学仏教学分野を事例として」『じんもんこん 2022 論文集』, pp. 257–262, 2022.

【研究報告書】

- 1) 「インド仏教教団における食の位置づけとその変遷：その宗教的・文化的意義について」『味の素食の文化センター・助成研究の報告』7, pp. 7–11, 1997.
- 2) 「インド仏教史におけるブッダの神格化をめぐる」『三島海雲記念財団・研究報告書』36, pp. 91–93, 1998.
- 3) *Reconsidering the Categorization of the Buddhist Canonical Scriptures in India*, Grant-in Aid for Scientific Research C (April 1999–March 2001), 2001, vi + 68 p.
- 4) 『<大乘涅槃経>系三昧經典の研究：方等泥洹経を中心として』 Grant-in Aid for Scientific Research C (April 2003–March 2005), 2005, v + 59 p.
- 5) 『大乘涅槃経（中層）の研究』 Grant-in Aid for Scientific Research C-2 (April 2005–March 2006), 2007, ii + 36 p.

【国際招待講演（2010 年以降）】

- 1) “The Origin and Current States of Digitization of Humanities in Japan,” Digital Humanities 2010, King’s College London, UK, 2010.7.10.
- 2) “An Attempt on Digital Humanities in Japan through International Collaboration Concerning the Research Base for Indology and Buddhist Studies,” Computers and the Humanities Symposium JinMonCom 2010, Tokyo Institute of Technology, Japan, 2010.12.11.
- 3) “Toward Appropriate Philological Structurization of Texts of the East: Toward Constructing the Knowledge Base of Indology and Buddhist Studies,” Tokyo University of Technology, Japan, 2010.12.12.
- 4) “General Comments on the Symposium,” Conference: Buddhist Nuns in India, University of Toronto, Canada, 2011.4.16.
- 5) “The Soteriology of the *Mahāyāna Mahāparinirvāṇasūtra*,” International Association for Buddhist Studies, Dharmadrum Institute, Taiwan, 2011.6.24.
- 6) “Knowledge Base through Cooperation: An Attempt of Digital Humanities in Japan,” International Association for Buddhist Studies, Dharmadrum Institute, Taiwan, 2011.6.24.
- 7) “Comments on the Dhammachai Pali Tipitaka Pilot Edition,” Dhammachai Pali Tipitaka Conference, Dhammachai Insitute, Thailand, 2011.7.15.
- 8) “ITLR and SAT in the age of Digital Humanities,” Workshop of Indo-Tibetan Lexical Resources, University of Hamburg, Germany, 2011.7.20.
- 9) “General Comments on the Symposium,” The 41st International Research Symposium “Modernity and Buddhism,” International Research Center for Japanese Studies, Japan, 2011.10.14.
- 10) (Keynote) “Creating New Research Environments in International Alliance,” INKE: Research

- Foundations for Understanding Books and Reading in a Digital Age: Text and Beyond, Ritsumeikan University, Japan, 2011.11.18.
- 11) “Creating New Buddhist Knowledge Environments in the Collaboration of SAT/DHII and ITLR,” SAT-ITLR Workshop, The University of Tokyo, Japan, 2011.12.24.
 - 12) “Regarding the Origin of Mahāyāna,” Buddhist Research Conference at University of Virginia, University of Virginia, USA, 2012.4.25.
 - 13) (Keynote) “Embracing a Distant View of the Digital Humanities,” Digital Humanities 2012, University of Hamburg, Germany, 2012.7.20.
 - 14) “General Comments on the Conference,” Symposium on “Cross-Cultural Transmission of Buddhist Texts: Theories and Practices of Translation,” University of Hamburg, Germany, 2012.7.23.
 - 15) “Korean Buddhism as Seen from Japanese Perspective: Focusing on Wonhyo’s Hermeneutical Attitude toward the Tathāgatagarbha Theory,” International Conference on Korean Buddhism in Commemoration of the 50th Anniversary of Institute for Buddhist Culture, Dongguk University, Korea, 2012.11.30.
 - 16) “The Transmission of Dharma in the Digital Age Buddhist Studies in the Context of Digital Scholarship,” The Transmission of Dhamma: from the Buddha’s Time to the Present Day, Thailand Science Park Convention Center, Thailand, 2013.2.23.
 - 17) “A Case Study of Integration of Services and Resources on a Web Service,” CERC (Cultural Evolution for Religion Research Compositum) Plenary Meeting, The University of British Columbia, Canada, 2013.5.3.
 - 18) (Keynote) “Early Pure Land Buddhism Manifesting as Written Text in Ancient India: A Background for the Emergence of Buddhism of Otherness and Other Power,” Buddhism and Contemporary Society Programme, The University of British Columbia, Canada, 2013.6.1.
 - 19) (Keynote) “Transcending Borders through DH Networking in the Asia-Pacific,” Japanese Association for Digital Humanities 2013, Ritsumeikan University, Japan, 2013.9.21.
 - 20) “Several Issues of a Buddhist Encyclopedia as a Base of Knowledge of Buddhist Studies in the Age of Digital Medium,” Colloque international Bouddhisme et encyclopédie, Collège de France, France, 2013.10.25.
 - 21) “The State-of-the-art of Buddhist Studies and Its Future: Critique of the Methodologies of Buddhist Studies,” The 4th Biannual International Conference of the Group of 4 Universities in East Asia on Buddhist Studies, Seoul, Korea, 2014.5.9.
 - 22) “Possible contributions to SPeCTReSS from Digital Humanities Initiative,” SPeCTReSS Project Inaugural Conference, Trinity College, University of Dublin, Ireland, 2014.5.25.
 - 23) “East Asian Knowledge Database,” McGill University, Canada, 2015.5.9.
 - 24) “Building Communities and Networks in the Humanities,” University of Western Sydney, Australia, 2015.6.29.
 - 25) “Mind the Gap between the Theory of Selflessness and the Concept of Subjectivity,” Subjectivity in Pure Land Buddhism: The 17th Biennial Conference of the International Association of Shin

- Buddhist Studies, Berkeley, USA, 2015.8.17.
- 26) “Some Reflections on Izutsu Toshihiko’s Metaphysics of Consciousness: Focusing on His Interpretation of the Buddhist Philosophy of the Treatise of the Awakening of the Faith of the Mahāyāna,” the XXI IAHR World Congress, Erfurt, Germany, 2015.8.26.
 - 27) (Keynote) “The Significance of Constructing a Buddhist Studies Knowledge Base in the Diversity of Digital Humanities,” UBC Workshop on a Global Network “Paper, Print & Cyberspace: The Perspective of a Global Network for the Multimedia and Interdisciplinary Studies of Buddhism and East Asian Religions,” University of British Columbia, Canada, 2015.10.4.
 - 28) “Significant Potentials of the Humanities in East Asia for the Development of Globally Shared Digital Humanities: Illustrative Details Provided by Buddhist Studies,” 6th Conference of Digital Archive and Digital Humanities, National Taiwan University, Taiwan, 2015.12.2.
 - 29) “Wōnhyo’s commentary on the Nirvana-sutra (Tae yōlban-gyōng chong’yo), Nirvana Sutra Workshop, UC Berkeley, USA, 2016.1.8.
 - 30) “Hathi Trust and the Future of Digital Archives,” Fukutake Hall, The University of Tokyo, Japan, 2016.1.25.
 - 31) “On the Origins of the Mahāyāna,” Dongguk University, Korea, 2016.3.11.
 - 32) (Keynote) “Reconsidering the Origin(s) of Mahāyāna Buddhism in the Post-Linguistic Turn Era,” Eko Center Internationales Buddhistisches Symposium im Eko-Haus, Dusseldorf, Germany, 2016.4.2.
 - 33) “The Significance of Constructing a Buddhist Studies Knowledge Base in the Diversity of Digital Humanities,” The University of Beijing, China, 2016.4.22.
 - 34) (Keynote) “Reconsidering the Methodologies for the Study of Mahāyāna Sūtras after the ‘Linguistic Turn’ in History,” Symposium: The Buddha’s Words and Their Interpretations, Otani University, Japan, 2016.5.27.
 - 35) “Some Reflections on Hermeneutical Issues Concerning the Tathāgatagarbha Theory in Relation to the *Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra*: Wōnhyo, Bu ston and Critical Buddhism,” International Conference on the Tathāgatagarbha or Buddha-nature Thought: Its Formation, Reception, and Transformation in India, East Asia, and Tibet, the Geumgang Center for Buddhist Studies (GCBS), Geumgang University, Korea, 2016.8.7.
 - 36) “Missions of Buddhist Studies in Digital Humanities for Developing the Full Potentials of Arts and Humanities Studies in the Digital Age,” International Workshop “Presenting Cultural Specificity in Digital Collections,” University of Singapore, Singapore, 2016.8.12.
 - 37) “Future of East Asian Digital Humanities,” The 6th Annual Conference of Japanese Association of Digital Humanities “Digital Scholarship in History and the Humanities,” the University of Tokyo, Japan, 2016.9.14.
 - 38) “Possibilities of Re-creation of Buddhist Studies in the Digital Age,” Buddhist Literacy in Early Modern Northern Vietnam, Rutgers University, USA, 2016.9.24.
 - 39) “Missions of Buddhist Studies in Digital Humanities for Developing the Full Potentials of Arts

and Humanities Studies in the Digital Age (Revised version of the presentation with the same title given at the University of Singapore),” International Conference on Recent Trends in Buddhist Research, Zhejiang University, China, 2016.10.22.

- 40) “Self-Benefit and the Benefit to Others in Pure Land Buddhism in India,” The 18th Biannual Conference of International Association for Shin Buddhist Studies, Tokyo, Japan, 2017.7.1.
- 41) “Chinese Translations and a Pāli Commentary to Bridge a Gap between the ‘Northern’ and the ‘Southern’ Traditions,” 18th Conference of the International Association of Buddhist Studies, University of Toronto, Canada, 2017.8.22.
- 42) “Retrospect and Prospects of Humanities Studies in the Digital Age,” The Second International Interdisciplinary Faculty Forum of the University of Chicago and the University of Tokyo: Perspectives on Big Data, University of Chicago, USA, 2018.3.12.
- 43) “Overview of the Activities of Digital Humanities Initiative at the University of Tokyo, International Conference on Cyberinfrastructure for Historical China Studies,” Harvard Yenching Institute, Shanghai, China, 2018.3.15.
- 44) (Keynote) “Building a Digital Infrastructure for the Humanities and the Role of Buddhist Studies,” The 4th International Conference on the Chinese Buddhist Canon: Tripitaka for the Future: Envisioning the Buddhist Canon in the Digital Age, The University of Arizona, USA, 2018.11.3.
- 45) “A Linguistic Domain as a Field of Consciousness: Appearance of a New Mode of Discourse in Mahāyāna Sūtras and the Germination of the Soteriology of Tathāgatagarbha Doctrine,” International Workshop: New Perspectives on the Idea of Buddha-Nature in Indian Buddhism, University of Hamburg, Germany, 2019.7.13.
- 46) “Buddhism and Digital Humanities,” King’s College London Buddhist Studies Research Seminars 2020, King’s College London, UK, 2020.1.31.
- 47) “An Essay on ‘East Asia as a Method of Research’ Illustrated by a Haiku Interpretation, an Edo Period Japanese Literary Formula, Offered by a Western Art Historian,” The 4th Biannual International Conference of the Group of 4 Universities in East Asia on Buddhist Studies, The University of Tokyo, Tokyo (Online), 2021.3.14.